

外国にルーツのある若者の高校・大学進学問題

—進路保障の考え方と宇都宮大学の実践—

宇都宮大学 田巻松雄

1 問題意識

外国にルーツのある学生（以下、外国人生徒）の進学には、以下の3つの大きな問題がある。①外国人生徒の高校進学率は日本人生徒に比べてはるかに低い。②外国人生徒の高等学校中途退学率は日本生徒に比べてはるかに高い。③外国人生徒の大学進学率は日本人生徒に比べてはるかに低い。

高校進学できない外国人生徒や高校からドロップアウトする外国人生徒は、将来、「下層」として日本社会に固定化されていくことが懸念される。進学格差の問題を放置することは将来の貧困・民族問題を作り出す。一方、外国人生徒は「グローバル人材」の候補生である。外国人生徒が「下層」に固定化されることを抑止するとともに、かれらが「グローバル人材」に成長することを促す研究と取り組みが強く求められている。

2 目的

外国人生徒の進路保障に関する議論と取り組みは、従来、高校進学のレベルで留まってきた。外国人生徒の高校進学率を確実に上げてきたのは、大阪府と神奈川県に代表される「特別枠」の設置であろう。特別枠を持つ高校は、受験の入り口の面での配慮だけでなく、入学後の教育に日本語指導や母語指導等の先進的な取り組みが見られる。

外国人生徒の大学進学における進路保障の必要性は、近年になってようやく、関心が高まってきたと言える。例えば、2014年3月には、移住連（NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク）主催のシンポジウム「ニューカマーの大学進学 - 進学格差の是正に向けて」が開催されている。

本報告は、外国人生徒の大学進学を可能にする進路保障が必要だということを論じるとともに宇都宮大学の実践の意義と課題を発信する。

3 方法

外国人生徒の高校進学支援として全国の都道府県で設置されている「特別措置」と「特別枠」の現状と課題、栃木県における全公立中学校を卒業した外国人生徒の進路状況（過去6年）、神奈川県の高校進学支援のための「特別枠」の意味、宇大国際学部に入学者の外国人生徒10数名を対象とする実態調査等に関する調査結果を踏まえ、どのような進路保障が必要かつ望ましいかについて論点を整理する。その上で、宇都宮大学国際学部が「外国人生徒入試」を導入した背景と趣旨を報告する。

4 結論

進学支援に関する全国的な状況と本学の実践を題材として、外国にルーツのある若者の進路保障のあり方について多面的に検討する現実と論点が提起される。

文献

田巻松雄、2014、『地域のグローバル化にどのように向きあうか - 外国人児童生徒教育問題を中心に -』下野新聞社。

田巻松雄／アナ・スエヨシ編、2015、『越境するペルー人 - 外国人労働者、日本で成長した若者、「帰国」した子どもたち』下野新聞社。

『岐路に立つ日本と世界』平成26年度科学研究費補助金報告書、研究代表者、田巻松雄。